

◆ウランにまつわる伝承◆

◎オーストラリアの先住民ミラル族の伝承

『私たちの聖地・ジャンが荒らされるならば、壊滅的な恐ろしい力が世界に解き放たれる』と・・・・・・・・

(ミラル族は、オーストラリアの準州の首都ダーウィンの東約200KMに位置するカカドゥ国立公園で暮らすアボリジニです。カカドゥには、3つの

ウラン鉱床があり、世界のウランの10%を産出するオーストラリア最大のウラン鉱山レンジャーがあります。)

また、イエローケーキと呼ばれるウランの精錬所があり、日本で使用するウラン燃料の、約38%がオーストラリアから輸入されています。

◎日本初の本格的ウラン鉱山・人形峠の伝承

『入っちゃならん、掘っちゃならん、いじくったりしたら祟りがある』と・・・・・・・・・・・・・・・・

(人形峠一帯の山奥の土地に、かつてに踏み込むことを深く戒めており、採掘が始まるはるか昔からの伝承です。

また、この地には、かつて、大蜘蛛と蔑視されたこの地の守護者が、侵略民族ヤマトの人形を用いた偽計により、非業の死を遂げた伝承が残されています。

おそらく、土地の守護者は、かつて、日本全土に住んでいた原住民アイヌであったと考えられ、人形峠との名は、大蜘蛛伝承に由来しています。

因に、ヤマトの侵略に抵抗した原住民は、「鬼・土蜘蛛・クズ・蛇・オロチ・エミシ・エゾ等」と、

蔑視的意味合いを込めて様々に呼称されておりました。

1956年、岡山・鳥取の両県にまたがる人形峠で日本初の本格的ウラン採掘が開始され、採掘を終了した1987年までに約84トンのウランが抽出され、ウラン残土45万立方メートル(200Lドラム缶225万本)が放置され問題となっておりました。

この残土の中でも高レベルの残土290立方メートルは、アメリカ・ユタ州の聖地である先住民居留地へ、さらに、カナダ・オーストリア・南アフリカの鉱山へと血税を使って投棄されております。また、一部はレンガに加工されて、日本各地に出荷されたことが判明しております。

◎ネイティブ・アメリカン ホピの伝承

『母なる大地から心臓をえぐり出してはならない、もしえぐり取ったならば、それは灰の詰まった瓢箪と化し、空から降りやがて世界を破滅に導く、この瓢箪の灰は恐ろしい破壊力を持ち川を煮えたぎらせ、大地を焼きつくし、生命が育たなくなる、そして人々は不治の奇病に苦しむのだ』と・・・・・・・・・・・・・・・・

(ホピは、アメリカの西部に位置した不毛の台地であるフォーコーナーズ(ユタ・コロラド・ニュ

ーメキシコ・アリゾナの境界線が1点に接する地域)の中の、主にアリゾナにある居留地に住んでいます。

フォーコーナーズにはナバホやホピ族の聖地があり、そこには、ウランに代表された鉱物資源が豊富にあります。

広島市・長崎市に投下された原爆の材料であるウランは、このホピの聖地にある鉱山から採掘されています。

ホピには、イスラエル民族のバイブルに相当する「聖典」があります。

その聖典によると、現在は第四の時代(世界)と呼ばれ、それ以前の第一・第二・第三の時代は、いずれも、人間性が失われて強欲に陥り、非人間文明である物質文明を選択したことで、浄化(火・氷・水の洗礼)が訪れ、滅びたとされており。しかし、いずれの時代でも、人間らしく生きていた少数の人々が、新時代建設者として天に救済され、次の時代へと移行しています。

ちなみに、第三世界は大洪水の浄化によって滅びています。バイブルの「ノアの方舟」に象徴されるように、それは、世界の古代民族の共通した伝承です。

日本では岩手県・洋野町と雫石町、そして沖縄県・石垣島に同様の伝承が残っています。

そして、またしても、物質文明を選択した現在の第四の時代の人類の終末が、目前に迫っていることを示唆する“ホピの予言”のほとんどが、既に成就したといわれています。)

◆ U = Z UFO事件 ◆

1954年、9月から10月にかけて連日正午になると、英国ロンドン近郊各地のレーダー基地において、レーダースコープ上に謎のブリップ(輝点)群が補足されました。

最初、そのブリップ群は馬蹄形ないし英語の「U」形で現れ、次にその隊形を解いて二本の平行線となり、最後にアルファベットの「Z」形になってから、いずれもなくなりスコープ上から消え去りました。

幾日もの間この正体不明の映像は同じ動きを繰り返す、このため各空軍基地より戦闘機がスクランブル発進し、上空を偵察飛行しましたが、基地のレーダーにはハッキリと映像が映っているにもかかわらず、上空を巡回する戦闘機からは“何も発見出来ない”との報告がよせられるばかりでした。

この事件は20日間つづき、事件後、軍首脳陣はこの現象(映像)をUFOによるものと断定、また更に、UFOは「U=Z」という文字隊形をもって地上(人類)に何等かの意思表示・サインを送ってきたに違いないと判断しました。

その解釈をめぐって何日も議論がたたかわされ、その結果、「U」は、核分裂反応を引き起こすウラン(英語名ウラニウム)の元素記号で原水爆の意味、「Z」はアルファベットの最後の文字で「終り」を意味し、それを「=」イコールで結び『人類が原水爆を使用すると世界の最後(破滅)が来る』という警告であろうという結論に至りました。

尚、この年は太平洋のビキニ諸島において米国に

よる核実験が盛んに繰り返され、日本の第5福竜丸の乗組員が被爆しました。

また、米国は、1953年12月の国連総会において、原子力の平和利用を提案しており、その翌1954年、原発推進のために原子力エネルギー法を修正しました。

さらに、旧ソ連においては、世界発の原発実用炉が稼働しております。

この事件は、毎日正午に決まった編隊形で発生したことから、英軍部はそれを知的にコントロールされた、他の遊星から飛来した宇宙船(UFO)によるものであると認め、“原水爆をもてあそぶと地球は滅亡する”との宇宙側の警告であるとの結論に到達し、UFOの存在を認めたところに大変意義がありました。

翌年の1955年、スイスのジュネーブでの四巨頭(アメリカ・旧ソ連・イギリス・フランスの各首脳)において、“宇宙からの警告にどう対処すべきか”が検討されたといわれ、英国空軍のドウディング元帥の次のような発言も「U=Z事件」を反映したものといえます。

『私は他の遊星の人たちが空飛ぶ円盤を操縦して、現今のわが世界の危機に、援助の手をさし延べられんとしていることを確信する。その証拠は圧倒的である』『だが、我々の道徳や倫理のレベルが高度なものとならねば』と……………